

国際理解教育/開発教育 学習指導（活動）案

【実践者】

授業者氏名	松濤 萌子	学校名	私立 聖徳大学附属小学校
教科（科目）・領域	全科	対象学年（人数）	2年 2組（29名）
実践年月日もしくは期間（時数）	2022年 12月17日（金）～21日（火）（3時間）		

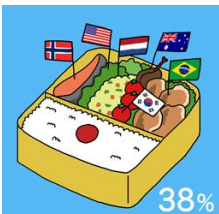
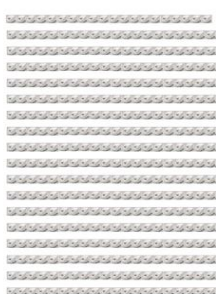
【実施概要】

1. 単元名(活動名)：この食べものはどこから来るの?～みんなが幸せに暮らすために～						
2. 実践する教科・領域： 特別活動		3. 学習領域				
			1	2	3	4
		A多文化社会	文化理解	文化交流	多文化共生	
		Bグローバル社会	相互依存	情報化		
		C地球的課題	人権	環境	平和	開発
		D未来への選択	歴史認識	市民意識	社会参加	
4. 単元の目標（評価規準を意識して設定）： 食べ物を通じて、外国とつながっていることを理解するとともに、食べ物が多く捨てられている一方で、十分な食べ物がない子どもがいることを知る。						
5. 単元の 評価規準	①知識及び技能	食べ物を通じて外国とつながっていることを理解し、食べ物が多く捨てられている一方で、十分な食べ物がない子どもがいることを知る。				
	②思考力、判断力、表現力等	食べ物を無駄にしないために自分にできることを考えて発表する。				
	③学びに向かう力	食べ物を無駄にしないために、自分にできることをしようとする。				
6. 単元設定の理由・単元の意義 (児童/生徒観、教材観、指導観)		【単元設定の理由あるいは単元の意義】 子どもたちがこれからの予測不能な社会を生き抜くために、「生きる力」を育成することが求められている。今回の単元では、地球規模で起きている課題を「知る・考える・行動する」の3つの段階を踏み、対象となる子どもたちに合わせた展開としたい。 本単元で扱う、地球規模課題は、子どもたちの身近なテーマと結びつけて考えやすいよう、フードロス問題にした。フードロスは、世界でも年間13億トン以上、日本でも年間600万トン以上出ており、SDGsにも項目として、記されている。毎日クラスでいただいている会食からもフードロスが出ているため、課題としてとらえられるようにする。 【児童／生徒観】 新しいことや面白そうなのが好きで、学習に対する意欲が高い子どもが多い。わからないことはわからない、などと思ったことを素直に伝えることができる活発な子が多い。コロナ禍での生活様式で学校生活を送ってきたため、グループワークや話し合いといった経験をあまりしてきていない子どもたちである。 一方で、発達に遅れのある子どもも複数在籍しており、理解力や読み書きをする力などの基本的な能力は、クラス内で大きな差がある。				

	【教材観】 食に関するテーマの教材なので、子どもたちにとっても身近に感じられるものであり、ジブンゴト化しやすいものである。本教材を経て、SDGsや地球規模課題に目を向けるきっかけをつくり、そしてそれらの課題は様々なものと結びついて考えることができる、ということの練習をするためのものである。 【指導観】 地球規模で起きている課題に対し、まず課題意識を持たせることが大切である。その上で、SDGsとの関連を考える活動を通し、つながりを意識できるようにする。最終目標は、そのために行動することなので、自分には何ができるのか考え、日々の行動に移せるようにしたい。 ジブンゴトとして捉えるのが難しい年齢なので、子どもとの対話を意識しながら授業展開を進めていく
--	--

7. 単元計画（全 3 時間）

時	ねらい	学習活動	資料など
0	・南国のフルーツなど、日本では採れない食べ物を提示し、外国産の食べ物に興味をもたせる。	・宿題として外国産の食べ物調査をする。	・食べ物の写真
1	・外国からどれくらいの食べ物が、日本に来ているか知る。 ・外国のおかげで、日本の食事が補われていることを知る。	・調べてきた食べ物がどこの国から来ているのか、地図で確認する。 ・自分の家の買い物は、日本産と外国産の食品のどちらが多いか比較する。 ・外国産の食べ物がなかったら、どんな給食になるのか知る。	・世界地図 ・食べ物の写真 ・会食の写真 ・食料自給率のイラスト
2・3 本時	・消費されている量と、破棄されている量を知る。 ・日本では泣き顔食べ物が多いのに、十分に栄養をとれない子ども世界にいることを知る。	・食品を、ニコニコ顔と泣き顔に見立てて、気持ちを想像する。 ・栄養不足の子が栄養をとるのに必要な食べ物と、日本で無駄になっている食べ物、どちらが多いかを比較する。 ・無駄になって捨てられる食べ物になったつもりで、台詞を言う。 ・SDGs との関連を考える。	・世界地図 ・絵本 ・食べ物のイラスト ・円グラフ ・ワークシート ・写真 ・SDGs のロゴ

過程・時間	教師の働きかけ・発問および学習活動	指導上の留意点 (支援)	資料(教材)
導入 (15分)	1. 前回の学習を振り返る。 「外国からたくさんの食べ物が届いていることがわかりましたね。」 2. 絵本『やさいのおしゃべり』を読む 3. ニコニコ食べ物と、泣いてる食べ物を提示する。 (1) 食べ物の気持ちを予想する。 「ニコニコ顔の時や、泣き顔の時はどんな気持ちかな。」 ニコニコ顔 嬉しい時 喜んでいる時 楽しい時  泣き顔 悲しい時 嫌なことがあった時 痛い時 (2) ニコニコ顔と泣き顔食べ物を比較する。 「ニコニコ顔と泣き顔の食べ物は、どちらが多いかな。」	ニコニコ食べ物が消費されているもの、泣いてる食べ物が捨てられている食べ物だということをおさえる。 食品廃棄されている写真を提示。 	・前時で作成した、世界地図を提示。 ・日本の食糧自給率資料  ・献立の写真を提示する。  ・会食で捨てられている量を示す。(ワークシート①) 
展開① (30分)	4. どれくらいの量が廃棄されているか知る。 (1) 会食の廃棄量を考える。 「みなさんは、毎日の会食で、ニコニコ顔の食べ物にできていますか。」 ・頑張って食べている。 ・嫌いなものは残してしまっている。		・日本全体で捨てられている量を示す。(ワークシート②)

(2)日本全体の食品廃棄量を考える。

「では、日本全体では、どれぐらいの量が捨てられているのでしょうか。」

- ・こんなに捨てられてしまっているんだね。
- ・もったいないね。

(3)会食室の方の動画を見る。

「毎日皆さんの会食を作ってくださっている方からお話をいただいています。どのような気持ちで作ってくれているのか、よく聞いてください。」

- ・みんなが元気に過ごせるように、栄養を考えて作っています
- ・美味しく食べてもらえるように、心をこめて作っています。

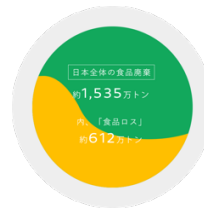
(4)ここまでの学習の感想を書く。

「会食の方の話も聞くことができました。ここまでの学習の感想を書いてみましょう。」



作っている人の苦労や思いを知ってもらおう。

あたりまえではないことに気づく。



- ・自分達が残した食べ物の写真を提示する。



- ・学習の感想シート

展開②

(30 分)

5.十分な栄養がとれない世界の子の例

(1)「みなさんは、おいしいごはんを食べて、栄養も十分に取れて元気に大きくなってきていますね。では、十分な栄養を取れない子はクラスの29人中何人くらいいるでしょう？」

-(5歳未満)の子ども3人に1人に相当する2億人が、栄養不足。

- ・クラスの半分くらい
- ・5人くらい
- ・10人くらい

(2)「世界にいる栄養不足の子たちにプレゼントしている食べ物と、日本の泣き顔食べ物は、どちらが多いかな？」

- ・世界にいるごはんが食べられない子の方が多いと思う
- ・こんなに捨てられているなら、もしかしたら日本かもしれない

写真を提示する。実際に、子どもたちを例にして説明する。



- ・栄養が十分に取れない国の子どもの写真を見せる。



- ・ワークシート③

①どちらがどれだけ多いかな？



世界の食料援助量と、日本の食品ロスの比較図を提示する。



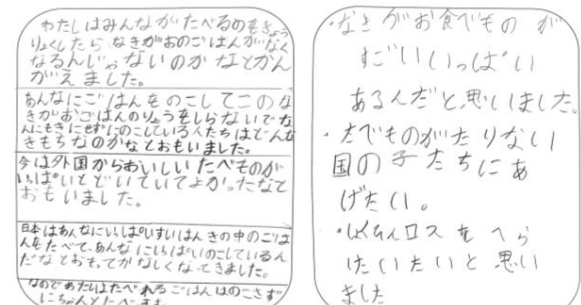
(3)「無駄になって捨てられる食べ物になりきって、台詞を言ってみましょう。」 ・ ぼくたちを無駄にしないで、外国の子どもたちに食べさせてよ。 ・ 無駄に捨てられるくらいなら、日本じゃなくて違う国に行きたいよ。 ・ 世界中のみんなが十分に食べられるようになるといいな。 6.SDGs との結びつきを考える 「この食べられるのに捨てられてしまっている問題をフードロスといいます。前に学習したSDGs のどの項目と関係があるか考えてみましょう。理由も考えられたら書いてみましょう。」 ・ 1 番だと思う。ご飯が食べられない子がかわいそうだから、食べられるようになるといいな。 ・ 2 番。日本のフードロスの分をあげたらいいのに。 ・ 12. 食べられる分だけ買うようにして、フードロスをなくしたい。 まとめ (15分)	(3)「無駄になって捨てられる食べ物になりきって、台詞を言ってみましょう。」 ・ ぼくたちを無駄にしないで、外国の子どもたちに食べさせてよ。 ・ 無駄に捨てられるくらいなら、日本じゃなくて違う国に行きたいよ。 ・ 世界中のみんなが十分に食べられるようになるといいな。 6.SDGs との結びつきを考える 「この食べられるのに捨てられてしまっている問題をフードロスといいます。前に学習したSDGs のどの項目と関係があるか考えてみましょう。理由も考えられたら書いてみましょう。」 ・ 1 番だと思う。ご飯が食べられない子がかわいそうだから、食べられるようになるといいな。 ・ 2 番。日本のフードロスの分をあげたらいいのに。 ・ 12. 食べられる分だけ買うようにして、フードロスをなくしたい。 7.学習の振り返りと、発表 「今日の学習でわかったことや、思ったことを書きましょう。そして、自分にできることは何かを考え、できそうなことを書きましょう。」 ・ 会食を残さず食べるようにしたい。 ・ 好き嫌いをしないようにする。 ・ 食べ物がたくさん食べられることは、ありがたいことなのだと知った。 ・ これからは、食べ物に感謝して食べる。	項目の「飢餓をなくそう」も簡単に説明。 ・数人に自分ができることを発表してもらおう。	・ SDGs のロゴを提示する。  ・ (ワークシート④)  ・ 学習の感想シート 
9. 評価規準に基づく本時の評価 (評価方法) 日本には、捨てられてしまっている食べ物が多くあることを知り、自分にできることを考えている。(発言、ワークシートの振り返りから)			
10. 学習方法および外部との連携 食堂の方に話を聞く。 子どもたちが主体的に活動し、概念を自分事化できるような、ワークを多く取り入れる。			

11. 学校内外で国際理解教育・授業実践を広める取り組み

- ・学年の教員との連携
- ・学校内での発表
- ・小学校のHPや学園広報での授業内容公開

【自己評価】

12. 苦労した点	・子どもたちに、フードロスの問題にまつわる様々な事項を自分事化させることが難しかった。コロナ禍で生活している子どもたちは、配膳も食事の片付けも教師がしていたこともあり、食事がどこから来て、残したものはどこへ行くのかなどを知ること、経験として身近ではなかった。そのため、まず栄養が十分な食事をいただけることがあたり前ではない、ということから考えさせる経験をさせたかった。食事を作ってくれている人の苦労や思いを考えることをはじめ、食品廃棄量を知り、世界にいる栄養が十分に摂れない子たちのことを考えるまで、子どもたちの日常と結びつける展開に苦労した。 ・より広い範囲での概念を取り入れる前に、まずは子どもたちにとって身近で実感しやすい事柄を理解する活動を入れたことによって、低学年の子どもでも少しずつ世界のことに興味を持ち、理解を進める展開となった。しかし、それでも教室内で概念を説明することが難しいものも多く、説明することに予想以上に時間を多く割いてしまったため、活動や振り返りの時間を確保することに留意した。
13. 改善点	・食品がどこの国から来ているのかを調べ、世界地図を作製したが、世界地図を習っていない子どもたちが、自分の描いた食べ物を地図に貼る活動が予想以上に時間がかかってしまった。班ごとに世界地図を配り、グループで活動をしたが、子どもによってはかなり多くの量を調べてきていたため、意欲を受容しつつも、授業を進行するためのさらなる工夫が必要だと感じた。 ・日本の食品廃棄量についてのワークの際、量を可視化することが難しかったため、数字を用いて、像の重さなどで説明をしたが、それでも子どもたちには理解するのが難しかったと感じる。今回の授業では、炊飯器を基準に考えることができたため、さらに視覚的にわかりやすく大きさを表せる資料を充実させるとよかったと考える。 ・ものごととの繋がりを考える学習を取り入れたかったため、既習していた SDGs とフードロスとの関わりを考えるワークシートを用いたが、簡単な言葉で説明したとは言え、根本的な概念を理解するのは発達段階的にも難しく、十分な理解を与えられるほどの授業時間を確保することは難しいと思った。
14. 成果が出た点	・「食べ物調査隊」に子どもたちを任命し、事前にスーパーや台所などで、外国から来た食べ物を調べて絵を描いてきてもらっていた。その展開によって、子どもたちの食品に対する関心はより高くなっていたと感じる。また、自力で調べられない子がいることも想定し、対応できるように資料を用意しておいたことで、クラス全員が世界地図作成の活動に取り組むことができた。 ・クラス全員で世界地図を作製したことで、多くの食べ物が外国から届けられているという事実を、活動を通してより理解することに繋がった。子どもたちの主体的に活動する姿が見られた。

	・授業の導入で、絵本の読み聞かせをしたことで、子どもたちの授業への関心を引きつけることができ、捨てられてしまう食べ物の気持ちを理解する助けとなった。そして、後の廃棄された食品と、消費された食品の概念をスムーズに理解させることへ繋がった。 ・実際に子どもたちの昼食を作ってくださっている、食堂の方からメッセージをいただき、話しているところを動画で見せることができた。どんな人が作り、どんな思いがあって、自分たちのところまで届いているのかを理解することの助けとなった。また、実際に食べ残しを片付けている動画を見せることで、食事を作ってくれている人の気持ちを考えさせるきっかけとなった。 ・食品廃棄量をより身近に実感させるため、子どもたちにとって馴染みのある炊飯器を並べたワークシートを用いたことで、作った分のうち、どれほど消費され、どれほど廃棄されているのか、より自分事として捉える活動となった。
15. 学びの軌跡 (児童生徒の反応、感想文、作文、ノートなど)	〈第1時〉  食べ物がどこから来ているのか、世界地図に絵を貼り、可視化した。また、日本で生産された食べ物だけで作られた写真を見て塗り絵をするワークシートを通して、多くの食べ物が日本に届いていることに気づくことができていた。 〈第2・3時〉 授業での振り返り ・残した会食の量を見て驚いた。 ・好き嫌いせず食べるようにしたい。 ・泣き顔食べ物をなくしたい。 ・食事をいただけることに感謝したい。 ・出されたものは、残さず、しっかり食べたいと思った。 ・日本で捨てられているごはんが多いことがわかった。 ・会食を作ってくれている人たちが、残された食事を捨てていて悲しむと思った。  3人の内1人が食べられないことをして、おさらののている分は、全ぶ食べようと思った。

	 SDGs との関連を考えるワークシート発表 1→まずしいということは、お金もないしご飯も食べられないということだから。 2→ごはんが十分に食べられない子がいることを知ったから。 栄養が足りなくて命を落してしまう子がいるのに、泣き顔食べ物があんなに多いのはおかしいと思った。 3→栄養を十分にとらないと大人になれないから。 5→ごはんも男の人も女の人も平等にするのがいい。 6→安全な水がないと、おいしいごはんが食べられないから。 10→ごはんを分けてもらえる国とももらえない国があるのはよくない 十分に栄養が摂れる人と、摂れない人がいる問題と関係がある。 12→作る人も作りすぎないようにすると、フードロスがなくなる。 食べる人も、残さないようにすると思う。 14→きれいな海で育ったおいしい魚を食べれたらいいと思う。 15→きれいな空気はおいしい食べ物をつくるから。 17→やさしい心があれば、食べ物をあげたり、分け合ったりできると思う。
16. 授業者による自由記述	自分が考えた授業が一人歩きしてしまうことのないよう、目の前にいる子どもたちの様子をよく見ながら、進行することを心がけた。子どもたちは、意欲的に取り組んでくれたが、実際に授業をしてみて、さらに子どもの理解と思考を深められる方法もあったのではと、課題点も多くある。今回いただいた機会を糧に、さらなる授業改善をし、子どもに共鳴しながらもよりよい授業展開ができるような教師を今後も目指していきたい。

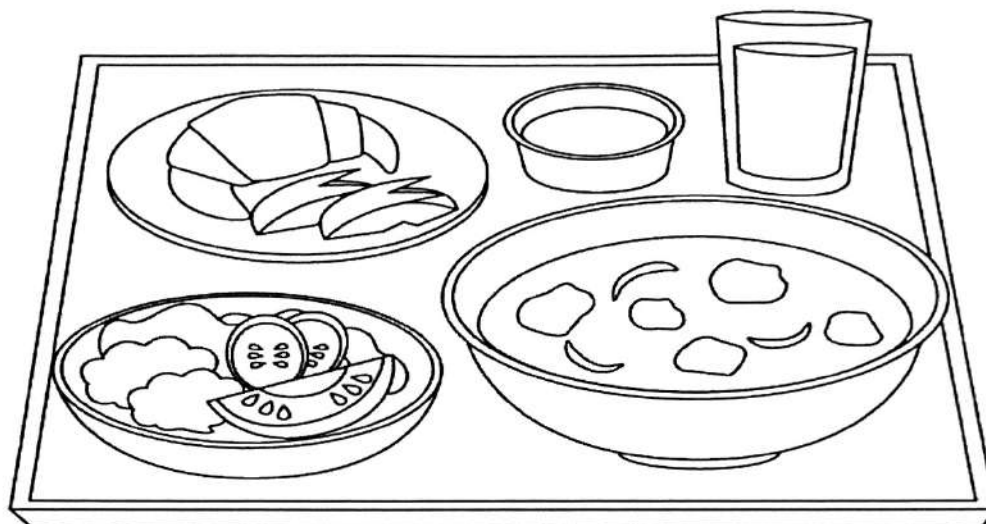
参考資料：

- ・mundi「食卓から世界を旅する」
- ・JICA 資料「ぼくら地球調査隊「世界の食料」」
- ・JICA 資料「共につくる私たちの未来～SDGs から持続可能な社会の創り手への一步を～」
- ・開発教育協会「開発教育実践ハンドブック～参加型学習で世界を感じる～」
- ・開発教育協会「SDGs ハンドブック～持続可能な開発目標を学ぶ～」
- ・池上彰「SDGs とぼくらをつなぐ本」
- ・農林水産省 HP <https://www.maff.go.jp/>
- ・厚生労働省 HP <https://www.mhlw.go.jp/index.html>
- ・内閣府 HP <https://www.cao.go.jp/>
- ・ユニセフ HP <https://www.unicef.or.jp/news/2019/0143.html>
- ・日本もったいない食品センターHP <https://www.mottainai-shokuhin-center.org/now/>
- ・good do 株式会社 HP <https://gooddo.jp/> 写真資料

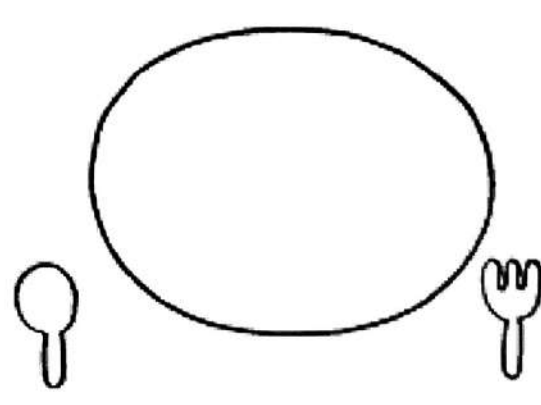
①外国から食べものがこなかったら、毎日の食事はどうなるかな。

食べられると思う分だけ色をぬろう。

(シチュー・パン・サラダ・プリン・牛にゅう・くだもの)



②日本で育った食べものだけでいただく食事(しょくじ)を見て思ったことを書きましょう。



☆ 1 聖徳小学校では、一日でどれだけ「なき顔食べもの」になって
いるのかな。 ○をつけよう！



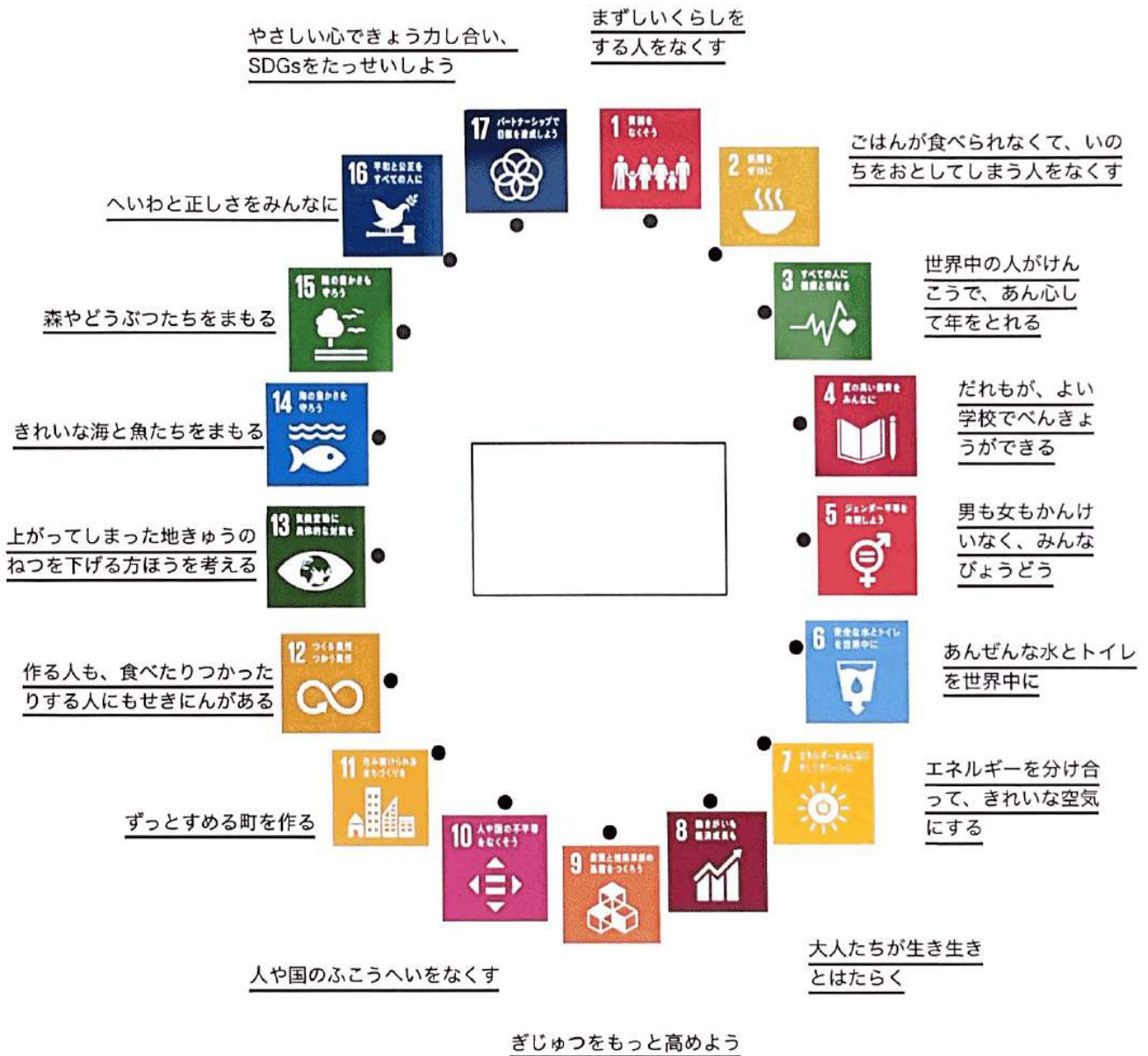
2年 組 番 ()

☆ 2

日本全体では、どれぐらい「なき顔食べもの」になっているのかな。

[illegible]

2年 組 番 ()



理ゆう

③今日の学習のふりかえり

- ・はじめて知ったこと
- ・気がついたこと
- ・思ったこと
- ・考えたこと
- など

